

# ちから スポーツの力 ～する・みる・ささえる～

## 伊賀市総合型地域スポーツクラブ

皆さんは日々運動をしていますか。運動をしている人もこれから始める人も、「上手になるために指導者に教えてもらいたい」「初心者だから基本から教わりたい」「激しい動きはできないけど健康のために体を動かしたい」「運動をしながら仲間との交流を楽しみたい」など、さまざま思いがあるのではないのでしょうか。

総合型地域スポーツクラブ\*は、子どもから高齢者まで幅広い年代が参加することができるさまざまな種目の教室を開催しています。また、初心者からトップレベルまで自分に合ったレベルで参加することもできます。

市内には現在、伊賀フューチャーズクラブ、いが

まちスポーツクラブ、おおやまだスポーツクラブ、神戸スポーツクラブ、府中スポーツクラブ、スポーツクラブどんぐりの6つのスポーツクラブがあります。



各クラブそれぞれの地域にある施設を利用し、地域のニーズや特色に合ったスポーツ教室を開催しているため、新たなスポーツへの挑戦、健康維持・増進のために、仲間との交流のために、気軽に教室に参加して体を動かしてみませんか。

体験教室やイベントもあるので、まずはやってみるのもオススメです。各クラブの詳しい教室内容などは、市ホームページをご覧ください。

\*スポーツ庁が認定する、地域住民が自主的・主体的に運営するスポーツクラブ

【問い合わせ】 スポーツ振興課

☎ 22-9635 FAX 22-9694

✉ sports@city.iga.lg.jp



## 伊賀の歴史余話

25

### 二宮金次郎像

伊賀焼の尊徳先生

学校の校庭にあるものといえ、薪を背負って本を読む少年金次郎の像を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。

二宮金次郎(尊徳)は、江戸後期に相模国で生まれ、少年時代に父母を亡くしながらも農耕に励み、読書を好み独自に算術を学んだとされます。成長後は荒廃した農村を建て直す政策「報徳仕法」を説いて、農政家として大きな業績を残しました。

家業を助けながら勉学に励んだ金次郎のイメージは、小学生の模範として戦前の修身の教科書に採用され、大正13(1924)年には前芝尋常高等小学校(愛知県豊橋市)に学校として初の金次郎像が建立されます。

その後、全国各地の学校に薪を背負い読書する姿を基本形とした金次郎像が造られていきます。伊賀地域では、昭和15(1940)年に像を建立した新居・西柘植の両小学校のほか、昭和10年代に学校への建立が進みました。そのなかでも特徴的



▲伊賀焼の二宮金次郎像(旧丸柱小学校)

な金次郎像を設置したのが丸柱小学校でした。昭和14(1939)年、地元の陶匠が陶製の金次郎像を製作し、学校に寄附したのです。当時の新聞は「伊賀焼の尊徳先生」の見出しで、玄関脇に建設中の像を紹介して「陶郷にふさはしい異色を誇る像」であると記しています。

丸柱小学校は、平成27(2015)年に閉校となりましたが、金次郎像は今も「報徳」と記された台座の上に姿を見ることが出来ます。

なお、この新聞記事によると、上野町の小学校でも高さ5尺2寸(約一・五七メートル)の青銅製の金次郎像が建設中であつたようです。当時は、このような銅製の金次郎像も各地に造られました。第二次大戦期の金属供出によって姿を消し、現在は石製の金次郎像が多く残されています。

文化財課歴史資料係  
☎/FAX 41・2271

## 明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

### デジタルと人権

デジタル社会の進展に伴い、AI(人工知能)を用いたさまざまな仕組みができてきました。身近なところでは、人を感知し温度調節してくれるエアコンや、スマートフォンのロックが解除できる顔認証など、AIにより私たちの生活はより豊かなものになっています。

一方、AIによるさまざまな問題も生じています。2018年10月にアメリカで起きた窃盗事件では、監視カメラの映像をもとにした顔認証システムで誤った人物が犯人と特定され、逮捕されるという事件が発生しました。

また、2019年4月2日付の朝日新聞では、「人工知能(AI)を使った顔認識技術は、女性や肌の色の濃い人の識別が苦手らしい。そんな研究報告を機に『差別を助長するAI』への懸念が強まっている」と報じています。

人種や性別による識別のばらつきが原因で誤認

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp

### ーデジタル自治推進局ー

逮捕につながるがあるとすれば、平等に生活する権利を不当に奪われる人が出てくることとなります。

このような状況から、憲法の保障する基本的人権を侵すものであってはならないことや、プライバシー確保などを定めるために、政府は2019年3月に「人間中心のAI社会原則」を策定しました。その後、国内企業においてもAIに関するガイドラインを定めるなどの動きが出てきています。

今後ますますデジタル技術を用いた仕組みがさまざまな場面で活用されるようになり、私たちはその恩恵をあらゆる分野で受けるようになるでしょう。その一方で、今までにない新たな人権課題が生じてくることも考えられます。人権はいつの時代も守られるべき普遍的価値であり、デジタル社会が進展しても第一に尊重すべきであることを常に意識し行動したいと思います。

## IGAMONO セレクション No.29

【問い合わせ】 商工労働課 ☎ 22-9669 FAX 22-9695

『伊賀の美味しいものの代表格「伊賀牛」「伊賀米」をひとくちに。』伊賀特産品の醤油「はさめず」を使ってコトコト炊いたお肉の旨みたっぷりの「時雨煮」を、ほどよい加減の酢飯で包み、おぼろ昆布で巻いたお寿司です。

美味しい伊賀を片手でつまめる「伊賀牛時雨煮巻き」。ぜひご賞味ください。



伊賀牛時雨煮巻き



株式会社きねや  
木根 英男さん

当社は、旬彩天「そらや」をはじめとした飲食事業や配食事業を営む食の会社です。地元素材に日々触れる中で、「伊賀の豊かな自然の恵みを日本全国に届けたい」「地元の人にも再発見してもらいたい」そんな気持ちを抱くようになり、伊賀産素材でつくる食のブランド「伊賀まんま」をたち上げました。何でもある時代だからこそ、便利さや手軽さだけを求めるのではなく、食の在り方を原点に

戻した「安全で美味しいもの」をつくりたいと考えています。子どもから高齢の方まで安心して食べてもらえる。その味を噛みしめてもらえる。大切な人に贈りたいと思ってもらえる。誰かに貰うとその人の想いを感じてもらえる。「伊賀をまんま伝える伊賀のまんま」、ブランド名には地元への愛情と感謝、そして誇りを込めています。

